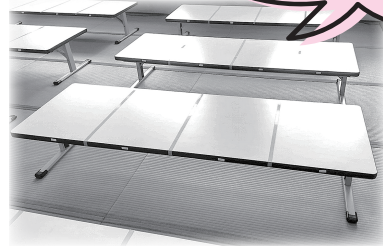




どうする？ 学童保育



保護者が働いている小学生を対象に、遊び場や生活の場を提供する学童保育(放課後児童クラブ)は自治体によってサービス内容が異なります。共働きの増加や夏の猛暑など社会が変わる中で明石市の「放課後のあり方」を考える必要があります。

利用者増加中

共働き家庭の増加にともない、全国で学童保育の利用者が増えています。明石市でも年々増加しており、今年度当初は4,533人です。

過密問題と夏休み

国基準の概ね1クラス40人以下、一人あたり面積1.65㎡をなんとか満たしていても、夏休みは市の裁量で定員の1.2倍が入所します。また、夏・冬休みは時間が長い(最大8時~19時)ことに加え、その期間だけ入所する児童も多く(今年度の夏で834人、うち4割が高学年)、過密化によるストレスや事故が心配です。

写真の長机(180cm×60cm)を8名で区切って使うクラブもあり、プライベートルームの狭さに驚きます。

今後は施設の拡張、入所者数の抑制、新たな受け皿への誘導等を並行して進める必要があります。

支援員不足

施設を拡大しようとしても、配置する支援員(職員)が足りなければできません。支援員には保育士資格や教員免許等の資格や児童福祉事業での実務経験等が必要です。(補助支援員は資格不問)しかし、有資格者は他の自治体や保育、教育の現場でも不足していて競争が激しい。待遇面はフルタイムでも平日の勤務時間が短いこともあって十分とさええず、昇給も2回のみ。人材確保のためにはキャリアに応じた昇給のほか、勤務者の子の保育所優先入所といった特典等、あらゆる手を尽くすべきです。他市ではスキマバイトでシフトを埋めるケースもありますが、明石で導入すべきではありません。

他の選択肢をつくらう

明石市は児童館がなく、民間の学童保育は非常に少ないので、放課後の行き先が公設の学堂保育に偏りがち。西宮市や尼崎市が行っている学校の施設を利用した放課後の自由な居場所(職員の見守り有り)を参考に、新しい選択肢を作る必要があります。

中西レオにおもいますか！



夏休みだけ利用は高学年の割合が通常の2倍

課題の1つが過密化
特に夏休みが混み合う

夏・冬休みだけの利用も可能
1年生~6年生まで
待機なしで入所

土曜と長期休みは最大8時~19時に開設

明石市では平日は放課後最大19時

学童保育とは就労家庭の小学生が放課後や長期休みの居場所として利用するサービス

学童保育の需要が年々高まっています

平日は午後から勤務土曜や夏休みは一日中など不規則な勤務時間

おまけにキャリアを積んでも昇給は不十分

そもそも明石市では放課後の常設サービスが学童保育一択なのが問題

児童館(神戸市)や緩やかな学校施設開放サービスがありません

昔とは異なり小学生が好きな勝手遊びに行くのも心配される時代

西宮市や尼崎市のように出入り自由大人の目もある学校施設といったサービスが必要です

学童保育を利用する家庭のニーズも様々な生活リズム勉強安全兄弟姉妹の関係(一緒に通ってほしいなど)

学童保育が学童保育

それぞれの立場のご意見をお寄せください

みなさんどうも！

ありがとうございます

ありがとうございます

学童保育を利用しているかしていないか、小学生でも元小学生でも、保護者でも支援員でも、みんなで良い環境を作るために意見を送ってください